

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 「オール沖縄」・テルヤ寛之市長実現へ！

コロナ禍の今こそ市民のくらし優先の市政を  
 衆院選と知事選の前哨戦 うるま市長選の勝利必ず！

18日に告示されるうるま市長選(25日投票)で「オール沖縄」勢力から立候補するテルヤ寛之・冲国大名誉教授の勝利をめざして11日、うるま市内の交差点で決起集会が開かれました。冲商連ではこの日、本島の4民商から約20人が決起集会に参加するとともにピラ配りやスポット宣伝などの活動を展開しました。

### 民商・冲商連が全力で支援へ

冲縄民商の山川睦(ちかし)事務局長は「冲縄民商うるま支部には約300人の会員がいます。コロナ禍の中で、かつてないほど厳しい業者の営業を乗り切るために何としてもテルヤ寛之さんを市長に押し上げたい。一人一人の会員自らの要求実現の選挙として、一人が10人の支持を広げてください！と訴えています」と話しています。

冲商連では、全民商の宣伝カー4台すべてをうるま市に配車するなど最大限の支援に力を入れています。



写真上は決起集会で訴えるテルヤ寛之氏(中央)。右はパネルを掲げて支援する民商会員や事務局員。

## ミャンマーの弾圧許すな！道ジュネーに70人

辺野古新基地建設の反対する市民有志が呼びかけ名護市役所前で10日、「ミャンマー市民への弾圧反対」を訴える集会とキャンドルを掲げガジュマル公園まで道ジュネー(練り歩き)を行いました。約70人の市民が参加し、名桜大学のミャンマーからの留学生(写真・上左)も参加しました。

### ミャンマー留学生が支援訴え

同留学生は「経済力のある日本の発言力は大きい。日本政府は弾圧をやめさせるための行動をとってほしい」と訴えました。呼びかけ人の1人仲本真さんは「ミャンマーの現状はひどい。同じアジアの国民としてひとごとではない。アジアの平和なくして沖縄の平和もない。辺野古新基地に反対する運動と結んで、ミャンマーの国民との連帯を広げたい」と話しました。



## “うりずん”の季節到来

やんばる地方に“うりずん”の季節が到来しました。様々な花がいっせいに咲き始めています。「うりずん」は春分から梅雨入りまでの時季。



左はイジュの花



右は月桃の花

## ゲート前の抗議活動は5月5日まで休止



基地内に入る工事車両をチェックする平和市民連絡会の高里鈴代さん(左から2人目)など(14日午前9時過ぎ)

冲縄県が12日から新型コロナウイルス感染症対策で「まん延防止等重点措置」を開始したことを受け、「オール沖縄会議」は13日から5月5日までキャンプ・シュワブゲート前をはじめ海上行動、安和港、塩川港での抗議活動を休止し、監視活動に切り替えました。

**工事車両の搬入続く**

しかし、この間もゲート前からは一日に100台を超える工事車両が基地内に入っています。ゲート前では20人ほどが監視活動を続け、工事車両の車種や台数などを記録しています。